

心の宝

令和4年新年号

花言葉
ロウバイ
(和名・蠟梅)
慈しみ、
ゆかしさ

宗華法本顯

年回法要について

年回法要は、一周忌・三回忌・七回忌・十三回忌・十七回忌・二十三回忌・二十七回忌・三十三回忌・五十回忌・百回忌の順でおつとめします。

地方によっては、二十三回忌・二十七回忌の代わりに二十五回忌をつとめる所もあり、また、三十七回忌・四十三回忌・四十七回忌をつとめる地域もありますので、詳しくは菩提寺にお尋ねください。

新年を迎えるにあたり仏壇を清掃して、位牌等で回忌を確認し、回忌が分かったら早目に菩提寺に連絡して、年回法要をおつとめしましょう。

また、年回にかかわらず、毎年の祥月命日（亡くなった当日）には、大切に供養いたしましょう。



【令和四年 年回表】

回忌	年
一周忌	令和三年
三回忌	令和二年
七回忌	平成二十八年
十三回忌	平成二十二年
十七回忌	平成十八年
二十三回忌	平成十二年
二十五回忌	平成十年
二十七回忌	平成八年
三十三回忌	平成二年
三十七回忌	昭和六十一年
四十三回忌	昭和五十五年
四十七回忌	昭和五十一年
五十回忌	昭和四十八年
百回忌	大正十二年

信徒の心得

- 一、私たちの宗旨は顕本法華宗です
- 一、顕本法華宗の総本山は京都の妙満寺です
- 一、私たちは日蓮大聖人が定められた大曼荼羅を御本尊として篤く仏・法・僧の三宝さまに帰依します
- 一、私たちは妙法蓮華経と日蓮大聖人の御書を教えの拠り所とします
- 一、私たちはお釈迦さまを教主と仰ぎ日蓮大聖人を宗祖日什大正師を開祖として経巻相承を宗是とします
- 一、私たちはお釈迦さまの大慈大悲を信じて努めて菩薩の行を实践します

目次

年頭法話……………	2
新年のごあいさつ……………	4
山本日恵観下を偲んで……………	6
聖訓カレンダー……………	7
河村日斌観下白寿記念インタビュー……………	10
こちら編集局……………	13
「立正大師證誓号宣下100周年」を迎えて……………	14
ぶらり寺々を訪ねて……………	17
写して学ぼう 写経体験……………	18
住職からのまごころ一品……………	20
宗門だより……………	22
本山だより……………	23
年賀広告……………	24

年頭法話

顕本法華宗管長 大川日仰
総本山妙満寺貫首



恭賀新年

令和4年の輝かしい新年を迎え、世界平和と日本の平安をお祈り申し上げます。

昨年、宗祖日蓮大聖人御降誕800年の慶讃大法要をコロナ禍の中ではありませんでしたが、全国の僧員各聖と、檀信徒の皆様の愛宗護法のご支援ご協力のおかげで、無事盛大に円成できましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、日蓮大聖人の御言葉に

行学の二道をはげみ候べし。行学たへなば仏法はあるべからず。

我もいたし人をも教化候へ。行学は信心よりをこるべく候

(諸法実相鈔)

とあるように、大聖人は、信心を基として行学二道に精進するようお教えされています。

「行」には自行と化他行があり、自行とは、自身の修行のことです。顕本法華宗の修行は毎日、朝夕の勤行唱題を通して、人格の完成と大安心(四苦八苦を超えた心)を得ることにあります。

化他行とは、他の人に教えを伝え弘めることです。自行で信仰が増進すると、自ずから正法顕本の教えを伝える心が芽生えてきますので、まず始めに、家族全員で総本山妙満寺や菩提寺の行事に参詣して、本宗の信仰を深めるよう努力いたしましょう。そして、他の人が誤った宗教の信仰をされていれば、やさしい心で丁寧にお題目信仰の必要性を伝えましょう。

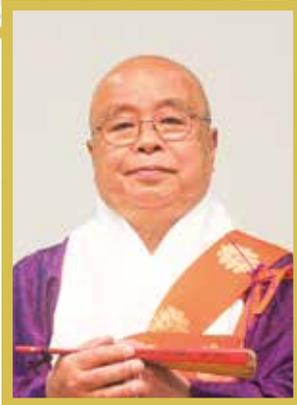
「学」とは教学のことで、本宗の根本教義は「経卷相承 直受法水」と「歴史的積尊を以つて、教理的積尊なりと顕本する」でありますので、法華経と日蓮大聖人、日什大正師、先師先哲の教学を学び、信心を培い、そして宗門発行の『心の宝』や総本山妙満寺発行の『妙塔』などの機関誌や、先師の著書を拝読し、正しい顕本教学を身につけましょう。

新年を迎え、行学二道にご精進していただくことを願っております。

南無妙法蓮華経 合掌

新年のごあいさつ

顕本法華宗 宗務総長 河野時巧



謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

2年間に亘る新型コロナウイルスの感染拡散が、人々の心や生活に与えた影響は計り知れません。心からお見舞い申し上げます。

昨年は、総本山妙満寺での宗祖日蓮大聖人御降誕八〇〇年慶讃大法要（春季報恩大法要）を、大川日仰猷下大導師のもと、インターネットを活用したりモニターにて法要の様子を全国に配信し、たくさんの方の檀信徒の皆様と虔修いたしました。また併せまして、記念コンサート等の御降誕八〇〇年慶讃事業も無事成満できましたことをご報告いたします（※総本山妙満寺ホームページより、法要の様子を視聴することができます）。

本年は、大正11年10月13日に大正天皇から日蓮大聖人へ「立正大師」の諡号宣下されてから、100年目を迎えます。「立正大師」の諡号宣下に当たっては、

当時の顕本法華宗管長 本多日生猷下の御功績多きものがありました。改めて、大師号宣下の意義を、令和の現代に照らし合わせて再考するべきであると思います。

さて大聖人のお言葉に、

苦をば苦とさとり、樂をば樂とひらき、

苦樂ともに思い合せて

南無妙法蓮華経とうち唱え居させ給え

（四條金吾殿御返事）



とあります。

コロナ禍の影響はしばらく続くでしょう。しかし、私たち顕本法華宗の信徒は苦樂の中にあっても、常にお題目をお唱えしなければなりません。

檀信徒の皆様、本年も前向きな毎日を送るよう努めてまいりましょう。

南無妙法蓮華経

山本日恵猯下を偲んで

宗綱参議委員長
大阪府茨木市 法華寺住職

奥村智学



山本猯下

令和3年7月31日、前管長で総本山妙満寺第306世 山本日恵猯下(即心院日恵上人)が、ご遷化されました。世寿91歳でした。

在りし日の猯下は、人から物事を頼まれれば断れない性格の持ち主でした。多くの人から頼りにされるのは、誰しもが認める猯下の行動力や企画力、そして突破力を期待してのことだったと思います。宗門や本山の各事業があれば、必ず名を連ねられ、例えるならば、その事業を達成する実働部隊の、いわば部隊長のような存在でした。

昭和63年、ブラジル顕本寺の開堂式が元管長・古瀬日宇猯下大導師のもと、華々しく奉修されました。しかし、遠い異国の地でのことですから、新寺院建立の折衝や、式の準備、新任職の育成、また信徒への布教まで行うには現地に担当者が滞在し、長期の赴任をしなければなりません。誰しもが尻込みすることを猯下は実行され、宗門史上例のないことを見事に達成されたのです。宗門挙げての大事業は猯下の存在なくしては、円滑な実現は困難だったといえます。

猯下は、のちに本誌上で「誰にもできなかったことをやり抜いた経験は、生涯の宝となり、私の人生の中で最も素晴らしく、充実した時期でした」と述懐しておられます。

私にとって、生涯親しくくださった猯下が、管長職在任期間の後半、ご健康を損なわれたことが唯一の心残りでありました。ここに謹んで山本日恵猯下の増円妙道をお祈り申し上げます。 合 掌

聖訓カレンダー

解説

兵庫県 妙立寺内 中村昌芳

正月の一日は 日のはじめ月の始め としのはじめ春の始め

おもんすどのにようほうごへんじ
重須殿女房御返事
弘安四年(一一八二) 大聖人六十歳

この御遺文は弘安4年1月5日、日蓮大聖人が60歳の時に、重須(静岡県富士宮市)の石川新兵衛能助のご夫人(南条時光の姉)に、年頭際に蒸餅やその他数々の御供物のお礼として送られたものです。

石川家は、重須の地頭であったことから重須殿と呼ばれ、大聖人はご夫人のことを重須女房と仰つてます。

この御遺文の冒頭は「十字二百まい」と書き始めておられることから『十

(むし)字(もち)御書』ともいわれ、ゼラチン状にして固めたもの」といって「むしもち」と読むのは、蒸した餅に十字の切れ目を入れたことに由来するものといわれております。

また大聖人は餅を「百まい」「満

月の如し」と形容されていることから、平たく丸い形だったと推測されます。

鎌倉時代は、中国から饅頭(肉まん)や羊羹(羊の肉とスープを謝を示されております。

二月

諸難ありとも疑う心なくば
自然と佛界にいたるべし

開目抄

文永九年（一一七二）大聖人五十一歳

この御遺文は、文永9年日蓮大聖人51歳の時に、流罪地である佐渡塚原三昧堂の寒さの中で、死

お読みになり、お弟子となられました。

さう説いていかねばなりません。本誌の年頭法話で管長猊下が

を覚悟しながら弟子や信徒に向けて形見として著わされた文章です。度重なる受難に対して、受難は法華経の行者の証であるとされました。『開目抄』は「われ日本の柱とならん」の三大誓願で有名で、顕本法華宗の開祖日什大正師も『開目抄』と『如説修行鈔』を

さて、佛界と申しますのは私達の心にすでにあるものです。法華経やお題目を正しく理解をしようと努め、疑いなく心を込めて信じていく中にあるものと存じます。

「やさしい心で丁寧にお題目信仰の必要を伝えましょう」とご親教くださいました。このようなコロナの受難があるからこそ、特にお題目を勧め、お題目を心を込めて

ました。『開目抄』は「われ日本の柱とならん」の三大誓願で有名で、顕本法華宗の開祖日什大正師も『開目抄』と『如説修行鈔』を

法華経の前では、諸経典は似て非なるものと大聖人は言われておられます。ですから、法華経の理で似たような仮の教えを改めさせ

唱えていかねばならないと思えます。法華経を身近な人に丁寧伝えることは、法華経の中で説かれている大事な事柄であります。

三月

佛を良医と号し
法を良薬に譬え
衆生を病人に譬う

聖愚問答鈔（下）

文永二年（一一六五）大聖人四十四歳

この御遺文は、文永2年大聖人44歳の時に武士の身分にあった檀越が、大聖人より賜った御書であると思われま

皆様もよくお唱えされる妙法蓮華経如来寿量品第十六というお経に出てくる「医子の喩」という比喩です。父である良医が病に苦しむ子供たちに薬をくださるのですが、

え、亡くなったはずの父も実は生きていたと知り皆で喜ぶ、というお話です。この比喩で「仏のいのちの不滅の真実」が語られるわけですが、短い喩に様々な教えが秘められています。「大切なものは傍らにあつて気付かない」という教え

本抄は上下二巻に分かれており、聖者と愚者との問答形式で構成されています。題号もこれによったものです。この下巻では、お釈尊の出世の本懐、法華経こそが真実の教えであることが説かれています。

みな心の平静を欠いてしまつて薬を飲まない。そこで良医は一計を案じ、人を遣わせて旅先で自分が亡くなつたと知らせました。子供たちは嘆き悲しみわれに返り良医の残してくださつた薬を飲み病が癒

もありません。皆様もあつて当たり前と思われる家族友人やご自身の健康のことなど、大事になさってください。

この御聖訓は法華七喩の一つで、

残してくださつた薬を飲み病が癒

ください。

河村日斌 猥下白寿 記念インタビュー

総本山妙満寺第306世加歴貫首の河村日斌^{にちびん}猥下が、御年99歳（数え年）の白寿をお迎えになられました。現在も大変お元気で、日々ご法務や教学の研鑽にお努めの河村猥下に、白寿の記念インタビューをさせていただきます。



総本山妙満寺にてご法話をされる河村猥下

編集局

河村日斌猥下におかれましては、本年（令和4年）白寿を迎えられまして、誠におめでとございます。99歳（数え年）を迎えられ、今のお気持ちをお聞かせください。

猥下

今の素直な気持ちは、人間99歳は長寿の最終段階で、自分自身、いつそんな歳になったのかと不思議に思いますし、また残念にも思うところもありますが、顕本法華宗の信仰を生涯実践できる法悦を感じております。

編集局

猥下は大正13年生まれとのことですが、幼少期〜青年期にかけては、どのような時代でしたか。また、軍隊生活での苦労話等もお聞かせください。

猥下

私の幼少期は、まだ大正デモクラシー（政治や社会、文化面等の各方面に現れた民主主義的、自由主義的な運動）が残っておりました。私は小学校2年まで母方の実家（山口県）で育ちました。そこは女性家族で大正時代の歌はよく覚えていきます。

第一次世界大戦（1914〜1918）後、貧富の差が激しくなり子ども心にも分かっていました。小学校

2年の夏休みに、静岡の今の寺の小僧に入りました。2〜3日すると、愛知県田原市野田に連れていかれ「これが今度来た小僧だ」と地元農家の人々に紹介されたのを覚えていきます。

昔の寺の小僧の修行は、今の方では想像もできないくらいに大変なものです。時には涙を流し、また歯を食いしばりながら、厳しい僧堂生活を送っていました。

軍隊生活については、昭和19年9月土浦海軍航空隊（茨城）に入り、10月から航空隊勤務になりました。翌年3月に基礎訓練が終わり操縦と偵察とに分かれて、6月に少尉となり現場に配置されました。操縦は、全員特攻の訓練のためにグライダー訓練に入り、偵察員である私は初め九十九里海岸（千葉）を護衛していましたが、沖縄への輸送船が、東京湾で敵からの潜水艦攻撃を受けたので茅ヶ崎防衛陣地（神奈川）に移り、続いて藤枝基地（静岡）へ転勤となり、そして終戦となりました。

編集局

長年、仏教学の研究や、様々な各宗各派の

教義を研究されている猥下に、私たち顕本法華宗のおしえは、どのような点がすばらしいのか、教えていただけますでしょうか。

猥下

顕本法華宗の教えは「事観」（信仰）を積み重ねることによって、現世即浄土としています。

その修行も日蓮大聖人のみ教えの通りに、題目受持（南無妙法蓮華経を一生懸命お唱えし、心にいつも信心を持ち続けること）による題目成仏を根本としており、この点が大変すばらしいのです。

私たちがお題目をお唱えいたしますと、六波羅蜜という大変困難な修行も自然に行なったこととなり、久遠本佛のお釈迦様に抱かれ、見守られ、毎日生活できるといいう大変ありがたい教えなのです。

編集局

健康で長生きの秘訣は何でしょうか？

猥下

健康・長生きは、仏様が与えてくださったもの。だから常に感謝の気持ちでお経を読み、お題目をお唱えすること。これが最上の秘訣です。そのことは90歳

を越すとよく分かりました。頭がボケない、声がよく出る、ご飯が美味しくいただける。足腰は弱くなりましたが、信仰のおかげで日々元気に過ごさせていただいております。

編集局 最後に、檀信徒・読者にお言葉をお願いいたします。

祝下 日蓮大聖人のみ教えをいただく中で、お題目をお唱えすればお釈迦様の世界に安住させていただけるということが、顕本法華宗の一番すぐれたところだと思います。お釈迦様が80歳にして病に倒れ、ご入滅を迎えられることとなった時に、泣き叫ぶお弟子の阿難に向かって「阿難よ、泣くな。心配するでない。われは南無妙法蓮華経と唱えてくれれば、いつでもこの靈鷲山にあらわれ、あなたの側についてあげます。嘆くでない！」とおっしゃいました。このことを改めてお示しくくださったのが、大聖人であり、日蓮大正師のみ教えなのです。さあ、皆様一緒にお題目を心を込めてお唱えいたしましょう。南無妙法蓮華経。

■河村祝下には大変ご多忙の中、編集局のインタビューにこころよく答えていただきました。最後に編集局員の心に残る河村祝下の思い出を追記します。

・河村祝下は、非常に難解な仏教の論文や研究書を数多く著述されていますが、心の宝「まなびの時間」のコーナーでは、一転、読者にも大聖人のみ教えをやさしくかみ砕いてご説明いただき、大変勉強になりました。

・私が大学生の時、祝下の授業が楽しみでした。僧侶になり、研修会等でまた講義を受けることができ、幸せを感じています。

・講義の後、茶話会での祝下のお言葉一つ一つが身に染みております。

略歴

大正13年生まれ。平成23年、妙塔学林特別講師、布教総監等歴任。平成22年、京都日蓮聖人門下十六本山寂光寺第34世加歴貫首。平成28年、総本山妙満寺第306世加歴貫首。元東洋大学・身延山大学教授。文学博士。「阿毘達磨論書の資料的研究」「有部の仏陀論」「天台学辞典」など著書多数。

こちら編集局

去る8月13日に世寿58歳(数え年)にてご遷化された、特命布教師吉本乗明上人(梅香院日游上人)は、総本山妙満寺の春季大法要や御会式でのご法話のみならず、全国の各寺院も巡回して布教されていきましたので、上人のご法話を拝聴された檀信徒も数多くおられたことと思います。

『心の宝』誌面においても、上人からは編集局に度々ご助言やご協力をいただいております。昨年春号では「宗祖御降誕の祝年を寿ぎて」という講題にてご多忙の中ご執筆いただき、お題目信仰の大切さを読者に説いていただきました。

上人は難しい仏教の教義を、いつもやさしく丁寧にお話しされ、私達も法話のお手本とさせていただいておりましたので、上人のご遷化は大変悲しいことではあります。檀信徒には常に「やさしく、真摯に、誠実に」向きあわれ、布教活動に尽力された吉本上人のお志を深く心に刻み、今後も読者に親しんでいただけるような『心の宝』の誌面にしてまいりたいと思います。

謹んで上人の増円妙道をお祈り申し上げます。南無妙法蓮華経。

『心の宝』編集局一同

※吉本上人のご法話は、総本山妙満寺ホームページよりご覧になれます。

「立正大師諡号宣下100周年」を迎えて

第1回 大師号の概略と

宣下の意義

宗務次長 千葉県 経胤寺住職 小松正学

日蓮大聖人には色々な敬称があります。宗祖、大聖人、お祖師様等々。その中に「立正大師」という諡号があります。

本年は、大正11年(1922)に大正天皇より日蓮大聖人へ、この「立正大師」の諡号が贈られてから100周年にあたるため、宗門では、総本山妙満寺の春季大法要などにおいて、記念法要が予定されています。

ところで、この大師号宣下に至るまでには、顕本法華宗管長 本多日生猊下(総本山妙満寺第261世、

1867~1931)と

いう方が最大の功労者として活躍されています。

そこで今号より4回

にわたり、諡号宣下にいたる経緯や本多猊下のこと、そして現代に生きる我々が諡号宣下をどのように捉え、どのように信仰生活に生かしていくべきなのか、皆さんと共に考えていきたいと思います。



本多日生猊下。写真提供(3枚)：本多日生記念財団

諡号とは

諡号とは、生前の行いを尊び死後に送られる称号で、諡などともいわれます。僧侶に対する諡号には、大師

号の他にも菩薩号・国師号・禪師号などがありますが、

「大師」とは大なる師範であり、一切衆生を化導する者という意味があります(※『釈子要覧』)。

天台宗開祖の最澄上人が、貞観8年(866)に清和天皇より「伝教大師」の諡号宣下されたのが最初で、以後、平成23年(2011)までに10宗・25人の高僧に対して33回の宣下がされています。

浄土宗の法然上人(8回)、黄檗宗の隠元禪師(2回)には複数の宣下がされていますが、基本的に各宗の宗祖や中興の祖と呼ばれる、限られた高僧に対して天皇から一度だけ与えられる称号で、大諡号はその称号の中でも最高位に位置付けられるものです。

「立正大師」宣下の最も重要な意義は、当時の絶対的な権威であった天皇より公式に諡号宣下がなされたことにより、世間の人々に対して日蓮大聖人のご人格と、そのご主張が公認されたことです。

立正安国の精神

俗に「名は体を表わす」といいますが、「立正大師」の諡には『立正安国論』が深く関わっています。

いうまでもなく『立正安国論』は大聖人一代のご主張で、「正しい教えを立てる(立正)ことよって、国が安んずる(安国)」というものです(本多猊下によれば、正しい教えとは『法華経』に基づき、久遠実成のお釈迦様を本仏と仰ぐこと)。

それゆえ開祖・日什大正師をはじめ日蓮大聖人門下において、天皇や朝廷への奏聞・諫暁には『立正安国論』が添えられているのです。

近年日本は、しばしば地震・台風被害に見舞われ、現在もコロナ禍で大変な状況ですが、鎌倉時代の大家人も、6年間に5度も改元(天皇の即位や、国に災害等が起きると元号を変えられた)されるといって大変な時代を生き抜かれました。

「立正大師諡号宣下100周年」を迎えるにあたって

100周年

鎌倉で正嘉元年（1257）の大地震に遭われた大聖人は、その惨状を目の当たりにされ、災害の原因を探るため岩本（静岡県富士市）の実相寺で大藏経を閲覧されました。そして、お題目の信仰によって乱れた心を立て直し、困難な状況におかれても、前向きに生き抜くよう『立正安国論』をご執筆され、訴えられたのです。

時代が下り、大正11年の



皇居に参集の各派管長。前列右、本多狷下。

立正大師宣下の翌年には、関東大震災が発生しました。「立正大師」宣下最大の功労者である本多日生狷下は、ご自身も被災されましたが、岩野直英海軍少将らをとめない『法華経』を読誦され、

多くの霊を弔われた後、福田雅太郎戒厳司令官を訪ねられ「帝都の復興は精神の方面から着手されなければならぬ」と述べられ、数十万枚の警告箋を印刷し配られました。そこには「自然の力の偉大なるに鑑み、宗教の信仰に目覚めよ」と警告されています。

またご著作の『聖訓要義 一巻 立正安国論』にも「真の立正安国とは、多少不自由な思いをしても、他国を助けようと全ての日本人（世界の人人々）が思うような世の中になることである（筆者趣意とも書かれています。コロナ禍である今こそ私たちに、本多狷下がご主張された「真の立正安国」の精神が求められているのではないのでしょうか。（次号へ続く）



立正大師 宣下書

※参考文献「諡号」立正大師「宣下をめぐる問題」矢吹康英論文／『日蓮主義とはなんだったのか』大谷栄一著 講談社

ぶらり 奇々を訪ねて

全国末寺の見どころと、ご住職からの一言を紹介いたします。

第5教区

流光山 法華寺

千葉県東金市菱沼422番地2



開基 日観上人

創建 享禄3年（1530）

住職 第51世 金坂正道師



お寺の見どころ

当寺は上総七里法華のうちの一寺院であり、東金線求名駅より車で3分ほどの、田園に囲まれた緑豊かで閑静な場所にあります。

「平成の大事業」の一環として、老朽化した本堂・庫裡・客殿・鐘楼堂を檀信徒の協力により一新し、毎夜ライトアップした本堂や鐘楼堂が、大変荘厳な雰囲気を出しています。また、客殿には慶長11年（1606）に描かれた、寺宝である日蓮聖人画像が掲げられています。

住職として心がけていること

私は、何事も檀信徒との交流が大切と思っていますので、年間行事や境内整備においては、総代さんを中心に多くの方にも来寺していただき、護持活動を共有しております。お寺に少しでも興味を持っていただき、地域のよりどころになるよう、日々精進中です。



写して学ぼう 写経体験

新型コロナウイルス感染症拡大等により、外出を控え、ご自宅でお過ごし読者も多いことと思いますが、この機会に大切な時間を有意義に過ごしませんか。新コーナーでは、写経を『心の宝』誌面上にて体験していただき、ご自身の身と心を清めるきっかけにしたいだけだと思います。

写経作法の一例

- 手を洗い、口をすすいで身を清めましょう。
- 着座して(正座・椅子どちらでも結構です)、静かに目を閉じ、心を落ち着かせましょう。
- 合掌して、お題目を三回お唱えし、家族やご先祖に感謝の気持ちをもちましょう。
- 写経は、ペン・鉛筆・筆ペン等何でも結構です。書きやすいもので丁寧な写しましょう。
- 写し終えたら、合掌して静かに目を閉じ、お題目を三回お唱えして終わりです。
- 写経の字は、上手下手は関係ありません。一文字一文字心を込めて丁寧に写すことが大切です。

出典

妙法蓮華経法華経第十六章如来寿量品の偈文は、冒頭の文字をとって、「自我偈」あるいは内容から「久遠偈」と呼ばれます。すべての仏典の頂点に立つ法華経、その中で特に大事なお経が如来寿量品で、さらにその中でも一番の肝心が「自我偈」になります。経文の趣意は、「釈尊は、人々が苦悩するこの娑婆世界の中にあつて、永遠不滅の寿命をもち、衆生を救わんとする大慈大悲のお心は、止むことなく続いている」となり、この経文の底にこそ、末法の衆生が等しく救われる南無妙法蓮華経の法門が秘められていると日蓮大聖人は教えられています。

経文の意味

每自作是念 以何令衆生
得入無上道 速成就佛身



意味：私(釈尊)はいついかなる場所にあつても、次のことを念じ続けている。即ち、どのようにして人々を無上の仏道に入らしめ、しかも速やかに悟りに到達して仏の境地を得せしめようか、と。

解説文 顕本法華宗 おつめのお経の解説より

妙法蓮華経如来寿量品第十六
妙法蓮華経如来寿量品第十六

每自作是念 以何令衆生

每自作是念 以何令衆生

得入無上道 速成就佛身

得入無上道 速成就佛身

書：秋葉敬真師（東京 法成寺住職。毎日書道展審査会員。書道誌三耀社副会長。）

正式な写経をされたい方

法華経「自我偈」全文の写経をされたい方は、総本山妙満寺にお問い合わせください。

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町 91 番地

顕本法華宗 総本山 妙満寺

電話番号 075-791-7171

URL <https://myomanji.jp>



雑煮用かけ海苔



はばのり・焼きのり・青のり・鰹節を混ぜたもの。はばのりと焼きのりはコンロで炙ってからもみのりにする。



はばのりとは、房州産の海藻を干したものだ。市場にはほとんど出回ることなかったのが、千葉県のご当地食材になりました。年の初めに食べると、「1年中幅を利かすことができる」と縁起がよいとされています。

住職さんのメモ

他所の地域の方々には食べ慣れない味かと思いますが、たまには他所の味を試してみたいかがでしょうか。



1

鍋に水を入れ、出汁昆布とかつお厚削りで出汁をとる。沸騰直前に昆布を取り出し、かつお厚削りはアクを取りながら中火で10分ほど煮出したのち取り出す。



出汁取りに使った昆布は具材として使うので捨てずにとっておく。

2

大根とにんじんは2~3mm程の厚みでいちょう切りにし、里芋は1cm厚に切り、3分ほど下茹でしておく。椎茸は薄切り。



3

出汁を醤油、酒、みりんで味を整えてから、具材を全て入れる。出汁取りに使った昆布は細切りにして入れる。



4

味を確認しながら、ふたをして20分程煮込む。



5

焼いた餅と雑煮出汁を器に盛り、三つ葉やかまぼこを添えて完成。食べる時にかけ海苔をたっぷり入れて食べましょう。



「住職が、心のこもった一品を紹介していただくコーナーです。皆様もぜひ。」

わが家のお雑煮

材料 2~3人分(目安)

出汁昆布	1枚
かつお厚削り	1つかみ
水	800cc
醤油	大さじ2~3
酒	大さじ1~2
みりん	大さじ1/2~1
にんじん	60g
大根	60g
里芋	2個
三つ葉	適量
かまぼこ	適量
雑煮用かけ海苔	適量
餅	適量

※調味料の分量は目安です。実際に調理しながら調整してください。

(食前の食法)

「天の三光に身を温め、地の五穀に魂を養う。皆これ本仏の慈悲なり。南無妙法蓮華経。いただきます。」
(天の三光：太陽、月、星。 地の五穀：米、麦、粟、豆、黍などの穀物)

お雑煮は身近でありながら地域と家庭の特色が現れる料理だと思っています。私が生まれ育った千葉ではお雑煮にはばのりは欠かせません。「はばのりが無ければ、新年も迎えられない!」と、我が家で言ったかどうかは定かではありませんが、本山で奉仕時代に、京白味噌の甘いお雑煮をいただいた時は衝撃的でした。



吉田広心師

1984年12月26日生、千葉県市原市出身。立正大学仏教学部卒業。総本山妙満寺奉仕生修了後、品川天妙国寺山務職員の経験を経て、現在は本妙寺(市原市滝口)、妙照寺(市原市東国吉)住職を務める。



宗務院

全国布教師研修会

10月29日、全国布教師研修会並びに総会が、Zoomを使ったリモート会議で開催されました。研修会では、特命布教師の川崎英真師(千葉県茂原市龍教寺住職)による「御本尊集・史料集についての説明」の講義があり、御本尊集・資料集の内容や、それらの価値について詳細な説明をしていただき、参加者から質問や活発な意見交換がありました。

第六教区

常楽院日経上人報恩の会

10月27日、第六教区音



川教会(富山市婦中町外輪野)にて常楽院日経上人御命日忌報恩法要を厳修いたしました。

本年は新型コロナウイルスの影響もあり、規模を縮小しての法要となりましたが、各地より参列の会員諸師、並びに音川教会を熱心に護持いただいている若瀬氏と共に日経上人の終焉の地でお題目を唱え、不惜身命の精神で法華経弘通に邁進された日経上人のご遺徳を偲びました。

第八教区

寛文法難先師顕彰参拜

10月4日、恒例の寛文

遷化

梅香院日遊上人



広島県安芸高田市・蓮華寺第28世 吉本乗明師が、令和3年8月13日に世寿58歳(数え年)にて遷化されました。8月17日密葬、10

月2日に本葬が蓮華寺において、両日とも島田幸晴師(広島市・妙詠寺住職)を導師に厳修されました。[略歴]昭和39年、広島県生まれ。平成16年、広島県安芸高田市・蓮華寺住職に就任。宗内においては、平成16年第8教区布教師。平成25年特命布教師(3期)。令和2年宗会議員等歴任。蓮華寺伽藍復興、寺門興隆に尽力された。

本山だより

第740回 宗祖日蓮大聖人報恩御会式奉行

10月12日・13日の2日間にわたり、第740回に当たる宗祖日蓮大聖人報恩御会式が大川日仰猊下大導師のもと、厳修されました。

9月30日に「緊急事態



宣言」が解除され、末寺のお上人方や本山檀信徒が参詣、2日間にわたり報恩法要を勤めることができました。

12日の連夜法要では、式衆が灯明を掲げて本堂を行道するなど、幽玄な雰囲気の中で大聖人のご遺徳をお偲びし、翌13日も、大川猊下大導師のもと、正当法要が奉修されました。

法要後は、顕本法華宗特命布教師・藤本智成師(岡山本経寺住職)による「御会式に寄せて〜菩提寺と妙満寺」と題する法話があり、参詣者は熱心に耳を傾けていました。

霊宝「安珍・清姫の鐘」お里帰り

10月23日、大川日仰猊下大導師のもと、「安珍・清姫の鐘」お里帰り法要が奉行されました。

当山に伝わる道成寺二代目釣鐘「安珍・清姫の鐘」は、正平年間に逸見万寿丸(源清重)により道成



道成寺本堂に安置された「安珍清姫の鐘」

寺に寄進され、逸見万寿丸の生誕700年に当たる今年「逸見万寿丸生誕七百年を祝う会」が発足、平成16年以来17年ぶりに「安珍・清姫の鐘」が道成寺にお里帰りしました。

さらに道成寺では、秘仏千手観音像の「中開帳」(本来は33年ごとに開帳)が特別に行われ、11月18日までの期間、逸見万寿丸ゆかりの本堂に釣鐘・秘仏が会するまたとない機会となりました。

令和4年
本山行事▶1/1(土・祝)
新歳国禱会▶2/28(月)
御開山会
釈尊涅槃会
宗祖降誕会▶3/21(月・祝)
春季彼岸会▶4/2(土)
花まつり▶5/21(土)・22(日)
春季報恩大法要▶8/6(土)
盂蘭盆施餓鬼会▶9/23(金・祝)
秋季彼岸会・敬老会▶10/12(水)・13(木)
宗祖日蓮大聖人御会式▶12/4(日)
釈尊成道会・大根だき▶12/31(土)
除夜の鐘

除夜の鐘・新歳国禱会

令和3年

12月31日(金) 23:30 ~ 除夜の鐘

令和4年

1月1日(土・祝) 0:00 ~ 新歳国禱会

大晦日に鐘を108回撞くことで私たちの煩惱を取り除き、新しい年の招福を願う行事、除夜の鐘。

大勢の人出が見込まれるため、本山では昨年同様、**檀信徒の方を含む一般参詣者の受け入れを中止、山内僧員のみで鐘撞きと法要を勤めます。**

何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



日什大正師留魂の根本道場

顕本法華宗 総本山妙満寺



〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町91

TEL 075-791-7171 FAX 075-791-7267

郵便振替 01060-8-5040 (口座名「妙満寺」)

HP <http://myomanji.jp/>

季刊「心の宝」第128号(令和4年新年号)

発行所 顕本法華宗宗務院

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町91 総本山妙満寺内

TEL 075(791)7171 FAX 075(791)7267 HP <http://www.kenpon.jp/>

発行日 令和3年11月20日

菩提寺